

全日本選手権、チャレンジカップ選手権 GP250 クラスに参加する4ストロークプロトタイプ車両技術仕様

本規則は 2009 年度全日本選手権およびチャレンジカップ選手権 GP250cc クラスに 4 ストローク 600cc のプロトタイプ車両の参加を許可することに伴い、その仕様を定めるため制定する。

参加車両は、(以下 GP2 プロトと呼ぶ) 下記の技術仕様に適合すること。

1-1 GP2 プロトタイプ車両の技術仕様

1-1-1 GP2 プロトタイプ車両は、2009 年度 MFJ 国内競技規則書 付則 7 GP フォーミュラ技術仕様第 1 項から 7 項の基本仕様 (p 112～p 121) に適合してなければならない。

ただし、GP フォーミュラ技術仕様第 1 項から 7 項と相反する項目は、この規則項目が優先される。

1-1-2 クラス

エンジン容積に基づいて下記のクラスに分類される。

クラス	エンジン排気量	最大気筒	エンジン形式
GP2 プロト	600 cc まで	設定せず	4 ストローク

1-1-3 エンジン

1-1-3-1 エンジンは 4 ストロークの原理で作動するもののみとする。

1-1-3-2 転倒時に地面と接触する恐れのあるオイルを保持する全てのエンジンケースは複合素材 (カーボンまたはケブラー製) の 2 次カバーによって保護されなければならない。

1-1-4 キャブレター/フューエルインジェクション

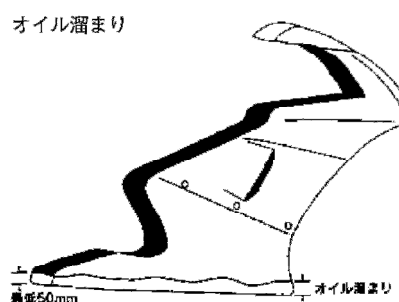
キャブレター/スロットルボディのサイズ (気筒あたりの最大径) は自由とする。

1-1-5 リム

サイズは、設定しない。

1-1-6 ボディーワーク (フェアリング・ウインドスクリーン・フェンダー)

1-1-6-1 車両の下部フェアリングは、取り付けられていなければならない。エンジンの破損または故障時に、そのエンジンに使用されるエンジンオイルおよびエンジン・クーラント総量の最低半分をフェアリング下部 (オイル受け) で保持できる構造になっていなくてはならない。フェアリング下部 (オイル受け) の端部



は、一番低いところから最低 50 mm の高さでなければならない。

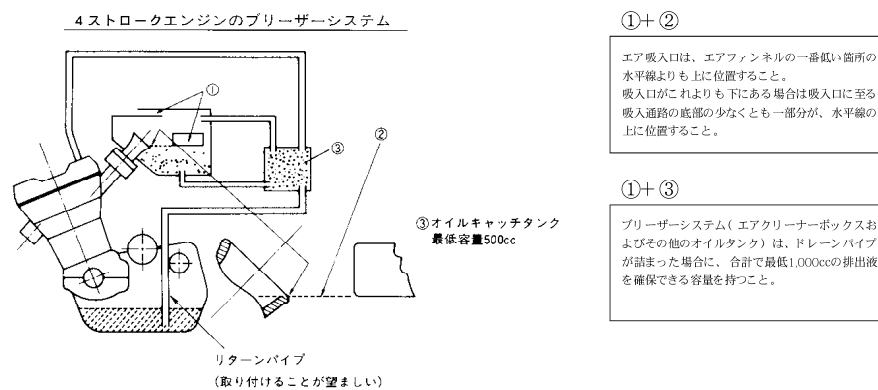
- 1-1-6-2 車両の下部フェアリングには、直径 20 mm 以上（許容範囲 + 5 mm）の孔が 1 個または 2 個開けられるものとする。

これらの孔はドライコンディション時には閉鎖され、競技監督がウェットレースコンディションを宣言した場合にのみ開けられる。

- 1-1-7 クローズドブリーザーシステム

車両はクローズドブリーザー・システムを採用していなければならない。すなわちオイル・ブリーザー・ラインはオイル・キャッチタンク、およびエアクリーナー・ボックスに連結され、これに排出する構造となっていること。

容量はオイル・キャッチタンクが最低 500 cc、オイル・キャッチタンクとエアクリーナー・ボックスの合計で最低 1000 cc とする。



- 1-1-8 ナンバープレート

- 1-1-8-1 7-13 項ナンバープレートに合致していなければならない。

- 1-1-8-2 ナンバープレートの地色及び数字の色は、[付則 5 13-5-1]に合致していなければならない。

- 1-1-9 音量規制

ピストンスピード 11m/sec で測って 105dB/A までとする。

レース終了後は 3dB/A の許容誤差が認められる。

- 1-1-10 最低重量

最低車重は 135kg とする。